

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	数値の現状	単位	目標の年次値	実績の年次値	本事業の年次値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）	目標等の公表先
斑鳩町	学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	R6年度に学校運営協議会を導入した斑鳩小学校・斑鳩南中学校については、学校と地域のかかわりも多くなり、関係性ができつつある。しかし、R7年度から学校運営協議会を導入する斑鳩西小学校・斑鳩東小学校・斑鳩中学校については、学校の環境整備など地域のボランティアの方に参加していただいているものの、学校・地域・行政の橋渡し役であるコーディネーター的役割を担う人（行政職員や教員が担っている場合を除く）がいない。	先進地のCS職員やコーディネーターを講師として招き、学校・地域・行政職員を対象に研修会を実施し、コーディネーターの役割と重要性について学ぶ。	主にR6年度に学校運営協議会を未導入の学校に対し、学校と地域のかかわりについて聞き取り調査を行い、R7年度の学校運営協議会同に向けて、委員になりえる方の発掘など、地域人材の発掘について、伴走支援を行った。	教員の業務負担軽減、学校運営を担ううえでの地域の方の当事者意識の向上	コーディネーター配置人数	0	人	5	0	2	R7年度から、町内すべての学校に学校運営協議会を設置し、学校運営に関することや、学校と地域の関わりについて協議されているところである。学校運営協議会の中では、学校・地域・行政間の円滑なコミュニケーションのためには、コーディネーターの存在が必要不可欠という認識はあり、地域の中心的役割を担う人材は存在するものの、地域の方の家庭等の都合もあり、コーディネーターを配置することができなかった。	https://www.town.ikaruga.nara.jp/0000002783.html

○令和7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

令和7年度の仮申請や本申請の際に設定したものをそのまま記載してください。

※課題の類型1から本年度の目標値までの欄

・本年度の実績値

「目標の達成度を測る指標」について、本年度の実績値を記載してください。

・アウトカムの達成度に関する評価

当該年度におけるアウトカムの達成度（課題の解決・改善の進捗度）を5段階で自己評価してください。

【選択肢】

05 本年度の目標値を大きく上回り、設定していた課題が解決した

04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた

03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた

02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる

01 本年度の目標値を大きく下回り、取組の根本的な見直しが求められる

・事業における成果、課題、改善点等

「アウトカムの達成度に関する評価」に対する分析を行い、その結果を具体的に記載してください。

目標値を達成し、課題の解決・改善が見られた場合は、本事業における成果を具体的に記載するとともに、目標達成のために行った工夫や次年度に向けた改善点などを記載してください。

目標値の達成に至らなかった場合は、その要因を具体的に記載するとともに、事業実施上で課題となっていることや次年度に向けた改善点などを記載してください。

・目標の公表先

令和7年度の目標や実績などについて公表しているホームページのURL等を入力してください。

公表に当たっては本事業の目標等を単独で掲載する必要はありません。例えば、本事業で「学校における働き方改革」に資する取組を実施する場合は、各教育委員会の「学校における働き方改革」の取組状況の一環として公表することが効果的であると考えられます。